

ご挨拶

サッカーから共生社会の実現を

本連盟が設立され8年目を迎えました。7つの障がい者サッカーの発展、JFAをはじめとするサッカーファミリーとの連携はさらに深まり、共生社会実現へ向けた活動は着実に前進しています。

障がい者サッカー日本代表の新カテゴリー創設

新型コロナウイルスの影響を受けていた7つの障がい者サッカー団体の大会・イベント等の開催が戻り、国際大会・国際親善試合も多数行われました。世界的に女子のカテゴリーの普及・強化の取り組みが進んでおり、日本でも2022年11月に14カテゴリー目の障がい者サッカー日本代表チームとして「知的障がい者サッカー女子日本代表」が新設されました。



会長 北澤 豪

誰もが、いつでも、どこでも、サッカーを身近に楽しめる環境整備

障がい者の日常を変えるべくスポーツ庁と連携し進めてきた障がい者サッカー連携会議によるネットワーク構築は地域主導の方針を継続しています。障がい種別を越えて、都道府県内の障がい者サッカー全体を推進する組織や会議体は35都道府県まで増え、インクルーシブな場づくり、指導者養成、チームづくりなど、地域の普及状況に応じた活動が推進されています。

教育・研修プログラムの充実

小中学校向けに「インクルーシブ教育プログラム」の提供を2022年4月から開始し、障がい者サッカーで培われる強みを活かした障害理解や多様性への気づきを促す体験型授業を子ども達に届けました。企業向けには障害の社会モデルや障害者差別解消法などの基礎知識のほか、それぞれの障害特性と接遇について学び行動変容を促す「eラーニング研修」の提供を新たに開始しています。

今後も、7つの障がい者サッカーとサッカーファミリーおよびスポーツ界との連携を深め、共生社会実現に向けて活動してまいります。益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

理 念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する

ビジョン

- 1 障がい者サッカーの普及に努め、社会に根付いたものとなることで、誰もが、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を創りあげる
- 2 障がい者サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える
- 3 健全な組織の構築に努め、社会的責任を果たしていくことで、障がい者サッカーの価値を向上する

役 割

- 1 JFA、47都道府県サッカー協会、Jクラブをはじめとしたサッカーファミリーとの連絡・連携窓口
- 2 7つの障がい者サッカー団体の組織基盤強化、競技力向上・普及活動の支援
- 3 障がい者サッカー・スポーツの普及・発展に向けた施策の企画・立案・実施

概 要

- 名称：
一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟
(Japan Inclusive Football Federation)
- 設立：2016 年 4 月 1 日
- 会長：北澤 豪
- 事務所所在地：
〒112-0004
東京都文京区後楽 1 丁目 4-18
トヨタ東京ビル



サッカーなら、
障害も
超えられる。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

障がい者サッカーに関する相談窓口：03-3818-2031(平日10:00～17:00)

URL：<https://www.jiff.football/>

：<https://www.facebook.com/jiff.football/>



2023年7月作成

サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

2014年5月、日本サッカー協会(JFA)による「JFAグラスルーツ宣言」を機に、日本で障がい者サッカーと健常者のサッカーの組織的な連携がはじまりました。その中で、これまで個々で普及・発展に努めてきた7つの障がい者サッカー団体を統括する団体として、2016年4月1日に日本障がい者サッカー連盟(JIFF)が設立されました。本連盟は、JFAおよび7団体と協働して障がい者サッカーの普及・発展に取り組み、共生社会の創造を目指します。

公益財団法人 日本サッカー協会



「JFAグラスルーツ宣言」とは、“誰もが・いつでも・どこでも”サッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めることを宣言するものです。JFAは、サッカーに関わるすべての人々を支え、サッカー、そしてスポーツが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目指します。



① グラスルーツ推進・賛同パートナー制度

- 「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」の3つのテーマに取り組む団体を賛同パートナーに認定
- 認定団体の活動を紹介

② 47都道府県サッカー協会への障がい者サッカー普及

- 各協会へ障がい者サッカー担当者配置
- 9つの地域での会議開催

③ 指導者養成事業

- 有資格指導者向けに障がい者サッカーコースを設置

JFAに加盟

連携



日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。日本サッカー協会(JFA)の加盟団体で、JFAと協働し、ビジョンの実現と7つの障がい者サッカー団体の強化・普及を促進していきます。

① 7つの障がい者サッカー団体の活動支援

7つの障がい者サッカー団体の組織基盤強化、競技力向上、普及活動を支援します。

- ⊕ 障がい者サッカー日本代表の統一ユニフォーム制定
- ⊕ JIFF補助金制度による7つの競技団体の強化・普及活動の支援
- ⊕ HPやSNS等による7つの競技団体の活動の発信
- ⊕ 障がい者サッカー全体の窓口業務



② 共生社会の実現に向けた事業

障がい者サッカーを社会に広く普及させ、障がい者と健常者との壁を取り除きます。

- ⊕ インクルーシブフットボールの実施
- ⊕ 指導者登録制度(インクルーシブフットボールコーチ)の整備・推進
- ⊕ 企業・教育機関向けの教育事業の推進
- ⊕ 手話通訳費用補助制度の運用
- ⊕ 障がい者や関連イベントへの参加



サポート

意見集約

7つの障がい者サッカー団体



特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会

<http://j-afa.jp/>

アンプティサッカーは足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外し、ロフトストランドクラッチと呼ばれる医療用補助器具で体を支えながらプレーします。



一般社団法人 日本CPサッカー協会

<http://jcpfa.jp/>

CPサッカーは比較的軽度の脳性麻痺により運動障害のある人が行う7人制サッカーです。オフサイドがない、片手で下から投げるスローインが可能なこと以外は、健常者のサッカーとほぼ同じルールで行われます。



特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会

<http://jsfa-official.jp/>

ソーシャルフットボールは精神障がいのある人が行うフットサルです。基本ルールは健常者のフットサルと同じで、女子選手を含む場合に限り最大6人でプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。



特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

<http://jffid.com/>

知的障がい者サッカーは知的障がいのある人が行う11人制のサッカーです。基本ルールは健常者のサッカーと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。フットサルもあります。



一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会

<http://www.web-jpfa.jp>

電動車椅子サッカーは国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な障がいのある人が行う4人制サッカーです。コントローラーを手やアゴなどを使って巧みに操り、電動車椅子でプレーします。



特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

<http://www.b-soccer.jp/>

2004年からパラリンピック正式種目のブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声を頼りにプレーする5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用します。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。



一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

<http://jdfa.jp/>

デフ(ろう者)サッカーは聴覚障がいのある人が行う11人制サッカーです。競技中は補聴器を外し、審判も笛だけではなくフラッグを使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。フットサルもあります。

